

CRF150R CRF150R II | パワーユニット(1)

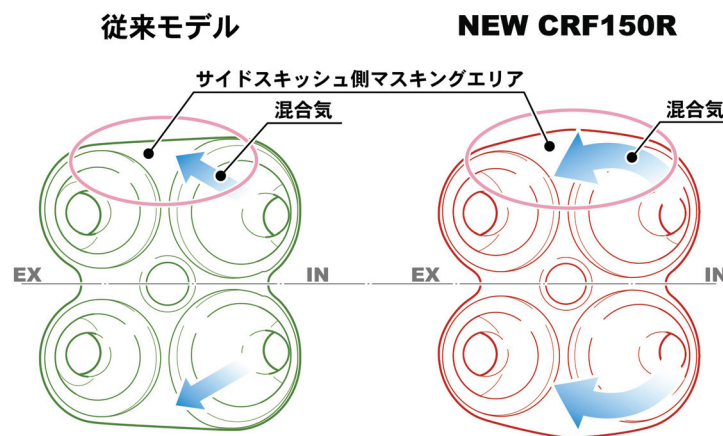
従来モデルに対し、より力強く高回転域まで伸びのあるパワーをねらい、大幅な見直しを行いました。

●シリンダーヘッド

出力向上の手法として、レスポンス低下に影響する高圧縮比化には頼らず、燃焼室の形状変更により燃焼効率を上げる手法を採用しました。バルブの開き始めから、より多くの混合気を吸気できるようにサイドスキッシュ側マスキングエリアの形状を変更することで、高出力化を図りました。

これにより、刻々と変化するコーナーなどでも十分な加速力をリニアに引き出すことが可能になりました。

■燃焼室形状比較図



●ピストン

高出力化に伴い、ピストン各部形状を見直し剛性アップを図りました。それに伴う重量増を、材質変更(CR F250RやCRF450Rと同じ Honda オリジナル高強度アルミ鍛造材)や、ピストンの天井肉厚を薄くすることなどで従来モデルと同等に抑えました。これにより、高回転域を多用するようなレースコンディションにおける耐久性の向上を図りました。

■ピストン形状比較図

